

【全国墨書土器・刻書土器、文字瓦 横断検索データベース凡例】

2015/01/19

◆本データベースには、明治大学古代学研究所ホームページで公開している下記のデータが収録されています。

・墨書・刻書土器 (http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_bokusho.html からダウンロード可能です)

・文字瓦 (http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_kawara2.html からダウンロード可能です)

◆2015 年 3 月段階で、以下の都道府県・地域に関するデータが検索可能です。

〈墨書土器〉 都道府県名・地域名の後に記した年・月までの発掘報告書を対象としています。

【秋田県】2011 年 3 月 【茨城県】2007 年 3 月 【栃木県】2008 年 5 月

【群馬県】2008 年 3 月 【埼玉県】2006 年 10 月 【千葉県】2005 年 3 月

【東京都】2006 年 8 月 【神奈川県】2007 年 12 月 【富山県】2009 年 12 月

【山梨県】2004 年 【長野県】2013 年 3 月 【岐阜県】2011 年 6 月

【静岡県】2009 年 4 月 【京都府(長岡京)】2011 年 9 月 【奈良県(飛鳥・藤原)】2008 年 3 月

【奈良県(平城宮)】2009 年 7 月 【奈良県(平城京)】2014 年 3 月 【山口県】2012 年 2 月

【徳島県】2007 年 3 月 【香川県】2007 年 3 月 【愛媛県】2007 年 3 月

【高知県】2006 年 1 月 【福岡県】2007 年 10 月 【佐賀県】2007 年 3 月

【長崎県】2005 年 3 月 【熊本県】2003 年 3 月 【大分県】1997 年 8 月

【宮崎県】2009 年 3 月 【鹿児島県】2009 年

〈文字瓦〉 調査をご担当いただいた方のお名前を記しております(敬称略)

【山城国(平安京)】上村和直 【山城国(長岡京 1)】古閑正浩 【山城国(長岡京 2)】中島信親

【山城国(恭仁京)】志賀崇・谷崎仁美 【山城国(山崎院)】寺嶋千春

【大和国(平城宮とその周辺)】志賀崇 【大和国(飛鳥藤原)】志賀崇

【大和国(その他)】大西貴夫・清水昭博・竹村明美・宗石祥一

【河内国】近藤康司 【和泉国】近藤康司 【摂津国】網伸也 【伊賀国】大西貴夫

【伊勢国】新田剛 【尾張国】前田清彦 【三河国】前田清彦 【遠江国】平野吾郎・有富純也

【駿河国】平野吾郎・有富純也 【伊豆国】鈴木敏中・有富純也 【甲斐国】望月秀和

【相模国】高橋香 【武蔵国(国府関連)】江口桂・荒井健治

【武蔵国(国分寺関連)】江口桂・荒井健治 【武蔵国(北武蔵)】渡辺一

【武蔵国(南武蔵)】深澤靖幸 【上総国】辻史郎 【下総国】辻史郎

【下総国文字瓦(五斗蒔)】山路直充・中村友一・清地良太

【常陸国文字瓦 1 (茨城郡・新治郡)】川口武彦

【常陸国文字瓦 2 (那賀郡)】川口武彦 【近江国】網伸也 【美濃国】小川貴司

【飛騨国】田中彰 【信濃国】倉澤正幸 【上野国】高井佳弘 【下野国 1 (国分寺)】山口耕一

【下野国 2 (国府等)】大橋泰夫 【下野国 3 (上神主・茂原等)】深谷昇

【陸奥国(岩手県)】伊藤博幸・高橋千晶

【陸奥国(宮城県)】高野芳宏・十川陽一 【陸奥国(宮城県仙台市)】長島栄一

【陸奥国(福島)】藤木海 【出羽国】水戸部秀樹 【加賀国】出越茂和

【越中国】大川原竜一 【佐渡国】矢越葉子 【播磨国】竹原伸仁 【美作国】妹尾周三

【備後国(広島県)】妹尾周三 【安芸国】妹尾周三 【因幡国】妹尾周三 【伯耆国】妹尾周三

【出雲国】妹尾周三 【紀伊国】近藤康司 【阿波国】渡邊誠 【讃岐国】渡邊誠
【筑前・筑後国】齋部麻矢・宮田浩之 【筑前国(大宰府関連)】齋部麻矢 【豊前国】宮田浩之
【肥後国】金田一精 【大隅国】宮田浩之

※それぞれの調査経緯や詳細情報につきましては、前述のダウンロードファイルよりご確認ください
ただけます。

◆記載内容について

※都道府県ごとにデータを作成しましたので、表記など統一されていない箇所もあります。そのため、検索の便を向上させるため、既に公開されているデータを修正した箇所もあります。

- 1、所在地…現行地名を大字名まで記載しました。なお、報告書記載時点の地名を（ ）内に併記した箇所もあります（例：新潟市東区本所字居浦（旧、新潟市本所字居浦）
- 2、遺跡の性格…文字瓦について、報告書抄録記載のものを採用しています。
- 3、出土遺構…遺構名称、遺構記号、番号、の順で記載しました（例：溝 SD5100）
- 4、出土状況…報告書に記載があった場合に採録しました
- 5、時期…「8世紀後半」「9世紀第2四半期」「奈良時代」「奈良時代・平安時代」などのように記載しました。

なお採録対象は12世紀末までとしています。

6、釈文・字体について

- ・原則として報告書の記載に従っていますが、一部釈文を改めた部分もあります。
- ・釈読不能の字句は「□」としました。また、必要に応じて校訂注を付した場合があります。【例：□〔奉カ〕】
- ・入力できない字句・記号は「=」とし、字体を説明するよう努めました。【例：=（「白」に「本」）】、【例：=（○の中に十）】。
- ・記号のうち、「○」・「×」についてはそのまま記載しました。
- ・戯画の場合は、「(戯画、鳥)」などのように記載しました。
- ・異体字は常用漢字で表記し、字体の項に対象字句がわかるように記載しました。
- ・文字が二か所以上に記載されている場合、「\」を挟んで区別しました。
- ・判読不能な文字について、字数のわかる場合 □ □□ □□□
字数不定の場合 []
上闕]
下闕 [] のように記しました。
- ・記載方法 墨書・朱書・漆書・ヘラ・線刻・押印・叩き板・箔に分類しました。
- ・記銘部位 「底部外面」「体部内面」などのように記載しました。
蓋については「外面」「内面」「つまみ」とし、長頸壺・甕などについては「体部外面（頸部）」「体部外面（肩部）」などの場合もあります。
- ・記銘方向 体部への記銘に関して、土器を通常置いた状態での方向を記載しています。
- ・器種 原則として以下の器種を記していますが、報告書の記載に従った場合もあります。
「杯」「椀」「皿」「盤」「蓋」「壺」「甕」「瓶」
※なお、「坏」は「杯」に、「碗」「埴」は「椀」に統一しました。
- ・器質 原則として以下の表現で記載しています。

「土師器」「須恵器」「山茶碗」「灰釉陶器」「緑釉陶器」「陶器」

・ 出典・発行年月日 上記の記載の典拠となった報告書等の情報を記載しました。

◆ 今後も検索機能を向上させるため、随時改良を加えていきます。

【簡易版データ ベース 凡例】

2015/01/19

- ◆本データベースには、明治大学古代学研究所ホームページで公開している「全国墨書・刻土器データベース」の一部 (http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_bokusho.html からダウンロード可能です) および速報等に基づいて収集されたデータが収録されています。
- ◆47 都道府県の墨書・刻書土器を対象とし、出土地・遺跡所在地・釈文・出典の項目が収録されています。
- ◆都道府県ごとにデータを作成しましたので、表記など統一されていない箇所もあります。そのため、検索の便を向上させるため、既に公開されているデータを修正した箇所もあります。
- ◆今後は漸次、全国墨書・刻書土器、文字瓦 横断検索データベースに統合してゆく予定です。それまでの目安としてご利用いただければ幸いです。